

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立津工業高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		校訓『質実剛健』のもと、「ものづくり、ひとづくり」を通し、「志、技、心」を育み、生徒の夢を実現し、次代の産業界を担う人材を輩出する学校
(2)	育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿） 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 基礎学力と工業に係る専門知識・技術を身に付けた、明確な目的意識を持ち、自己の進路実現に向かって努力する生徒 ○ 基本的生活習慣が確立し、規範意識やコミュニケーション力等の社会人基礎力を身に付けた、地域や企業の期待に応えられる生徒 ○ 健康を保持増進し、他者を思いやり、命を大切にする人権感覚を身に付けた、心身ともにたくましく健やかで、誠実な、社会に貢献できる生徒
	ありたい教職員の姿	○ 既存の枠にとらわれず、同僚、家庭・地域・企業等の関係者と連携・協働しながら、目指す学校像や教育目標等の理念の実現に主体的に取り組む教職員 ○ 高い志と使命感、生徒に対する教育的愛情を持ち、教育に携わる専門家としての確かな力量を発揮しながら、複雑化・多様化する教育課題の解決に向けた、また、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援にきめ細やかに取り組む教職員 ○ 絶えず研究と修養に励みながら、わかりやすい授業の構築（授業改善）、また、部活動や生徒会活動、資格取得等の生徒の自主的・自発的な活動の充実に積極的に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉学力向上や進路選択、部活動や資格取得等の自己実現への支援。安全・安心の学校づくり等 〈保護者〉生徒の自己実現への支援。安全・安心の学校づくり等 〈中学校〉多様な生徒の受け入れとそれに係る情報提供等 〈事業所・大学等の進路先〉基礎学力や専門知識・技術、社会人基礎力の育成等 〈地域〉地域の活性化に向けた連携。防災拠点施設としての活用等 〈同窓会〉歴史・伝統の継承とそれに係る情報提供等	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者、中学校、事業所・大学等の進路先、地域、同窓会〉同上	〈保護者、中学校、事業所・大学等の進路先、地域、同窓会〉教育活動への理解と協力・支援等

(3) 前年度の学校関係者評価など		○ 当シートについて、指標・結果とも、数字を用いて明確にする。また、結果に至った理由・要因を明記する。 ○ 生徒の活躍をどう他の生徒に広げ、学校の変革に繋げるか、「自分も！」と思わせるよう工夫する。 ○ 特長ある取組（普通科高校との違い）を工業に係る取組に限定せず、マスコミやSNS等の媒体を活用し、積極的にPRする。
(4) 現状と課題	教育活動	○ DXハイスクールもふまえ、基礎学力と工業に係る専門知識・技術を身に付ける取組、ICTを活用した教育のさらなる充実（授業改善）が必要である。 ○ いじめ防止（生命の尊さ）に係る教育や人権教育、教育相談や特別支援教育のさらなる充実が必要である。
	学校運営等	○ 教職員の資質向上とコンプライアンスの推進、特に人材確保が不可欠である。 ○ 働き方改革の推進、特に部活動指導における負担軽減が不可欠である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	〈建設工学科〉土木技術者、建築技術者としての活躍を目指し、木工実習や基礎測量等の共通の知識・技術とともに、建築コースと都市システムコースに分かれての専門的な知識・技術を学びます。 〈電気科〉電気技術者としての活躍を、また、国家資格の取得も目指し、発電・送電・配電から電気の応用までの知識・技術を幅広く学びます。 〈電子科〉電子技術者としての活躍を目指し、電気の基礎から電子回路、通信技術や情報処理技術等の専門までの知識・技術を幅広く学びます。 〈機械科〉機械技術者としての活躍を目指し、全産業の基盤となる機械工学に必要な、設計や工作、製図、原動機等の知識・技術を学びます。
学校運営等	信頼・期待される学校・教職員であるため、コンプライアンスの推進、資質・能力の向上、また、職場環境の整備（働きやすく、風通しの良い職場づくり）に取り組む。

4 求める生徒の姿

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 「ものづくり」に興味・関心があり、工業に係る専門知識・技術の習得に強い意欲を持ち、自己の進路実現に向かって主体的に学ぶ生徒 ○ ルールやマナーを順守し、良好なコミュニケーションを心がけながら、基本的生活習慣の確立に向かって弛みなく行動する生徒 ○ 部活動や生徒会活動、資格取得等の自主的・自発的な活動の充実に向かって積極的にチャレンジする生徒
-------------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組、「◎」：最重点取組

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程・学習指導	○ 教務部と進路指導部を中心に、基礎学力テストの実施やＩＣＴの活用等で、基礎学力の向上・定着を図る。 【活動指標】①基礎学力テストの１・２学年学期１回、３学年年１回の実施。②定期的な補習の実施 【成果指標】テスト結果最低位ランクの生徒数の（前年度比）減 ○ 各科を中心に、「課題研究」や資格取得に向けた支援等で、工業に係る専門知識・技術の習得を図る。 【活動指標】①企業との連携等を活用した「課題研究」の活性化。②資格取得に係る継続的な補習の実施 【成果指標】資格試験合格率の（前年度比）向上	（年度末及び適宜記載）	※ ◎
キャリア教育・進路指導	○ 進路指導部を中心に、入学後の早い段階からのキャリア教育や職業教育等で、社会人基礎力の習得と自己理解の深化、一人ひとりの進路実現を図る。 【活動指標】進路ガイダンス等の進路指導関連行事の各学年年３回以上の実施 【成果指標】①インターンシップ等の校外活動参加の生徒数の（前年度比）大幅な増。②進路決定率 100%	（年度末及び適宜記載）	◎
生徒指導	○ 生徒指導部を中心に、登校指導や頭髪服装指導等で、基本的生活習慣の確立を図る。 【活動指標】各種指導の継続的・定期的な実施 【成果指標】遅刻数と授業途中の退室数の（前年度比）大幅な減 ○ 生徒指導部を中心に、道德教育や人権教育等で、いじめや暴力をなそうと行動する力の習得を図る。 【活動指標】いじめ防止委員会の迅速な開催と積極的ないじめ認知 【成果指標】①いじめ認知の機会数（いじめ防止委員会の開催数）の（前年度比）増。②その上での、いじめ認知数の（前年度比）減	（年度末及び適宜記載）	

保健管理・ 教育相談 (特別支援 教育)	○ 保健部(養護教諭、教育相談担当、特別支援教育担当)を中心に、健康診断や健康相談、教育相談等で、心身の健康の保持増進を図る。 【活動指標】①外部講師等による保健講話の学期1回以上の実施。②教育相談の月1回以上の実施(スクールカウンセラーや発達障がい支援員による支援の充実) 【成果指標】①心身の不調・困り感の改善生徒数の増。②その上での、保健室利用の生徒数と各種相談利用の生徒数の(前年度比)減	(年度末及び適宜記載)	※ ◎
人権教育	○ 人権教育担当を中心に、人権LHRや人権講演会等で、他者を思いやり、命を大切にする人権感覚の習得を図る。 【活動指標】①公開人権LHRの年1回の実施。②生徒向け人権教育通信の学期1回以上の発行 【成果指標】①人権侵害(差別事象)認知の機会数の(前年度比)増。②その上での、人権侵害(差別事象)発生数の(前年度比)減(根絶)	(年度末及び適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育環境整備	○ 事務部を中心に、金品の管理や施設の整備等で、安全・安心の学校づくりを進める。 【活動指標】定期的な安全等確認の実施 【成果指標】管理不足、整備不良の発生数の(前年度比)減(根絶) ○ 教務部(主幹教諭、情報担当)を中心に、1人1台端末の整備等で、ICTの活用や校務の効率化を進める。 【活動指標】ICTの活用に向けた継続的な支援の実施(GIGAスクールサポーターによる支援の充実) 【成果指標】GIGAスクールサポーターによる支援の機会の(前年度比)増	(年度末及び適宜記載)	※ ◎

保護者・地域住民等との連携	○ 総務部を中心に、広報活動やPTA・同窓会等の関係機関との連携等で、家庭や地域とともにある学校づくりを進める。 【活動指標】①ホームページの定期的な更新とマスコミやSNS等の媒体の活用。②中学校との効果的な情報交換の実施 【成果指標】①PR（魅力発信）機会の創出。②中学校訪問数の（前年度比）増	（年度末及び適宜記載）	◎
研修・資質向上の取組	○ 各分掌（担当）を中心に、授業改善、コンプライアンス・ミーティングや現職教育等の校内研修等で、信頼・期待される学校づくりを進める。 【活動指標】①授業見学週間の年2回の設定。②校内研修の年5回以上の実施 【成果指標】①校内研修参加の教職員数の（前年度比）増。②不適切な指導の発生の数の（前年度比）の減（根絶）	（年度末及び適宜記載）	◎
組織運営	○ 管理職を中心に、働き方改革や健康管理等で、働きやすく、風通しの良い職場づくりを進める。 【活動指標】①定時退校日（月1日）に定時退校した教職員数の（前年度比）増（教職員の割合90%以上）。②部活動休養日（週1日）に休養した部活動数の（前年度比）増（部活動の割合100%）。③1時間以内に終了した会議の割合100%。④閉校日の年1日以上の設定 【成果指標】①時間外在校等時間年360時間超の教職員数0人。②時間外在校等時間月45時間超の教職員（延べ）数0人。③月平均時間外在校等時間30時間以下／1人。④年間休暇取得日数10日以上／1人	（年度末及び適宜記載）	※
改善課題			
（年度末に記載）			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)